



きした 敬 木下けいじ 県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

知事、「花育」の推進で需要拡大へ

花き生産は重要な観光資源

2月県議会一般質問に登壇



壇上から南房総の振興を訴える木下県議

南房総市・安房郡選出の木下敬二(きした・けいじ)県議は、平成26年度一般会計当初予算案など96議案を審議・可決した2月定例県議会で、一般質問と予算委員会の双方に登壇し、地域の課題をしっかりと県政に伝えました。一般質問では、南房総の重要な観光資源でもある花き生産の振興について取上げ、森田知事は「小さい時から花に親しんでもらう『花育』を推進し、需要拡大を図りたい」と前向きに答弁しました。

他にも高齢者施策や酪農振興など、木下県議が取上げた諸課題についての主な質疑を特集しました。なお、一般質問と予算委員会の双方に登壇するのは異例のことで、予算委員会の質疑は、また日を改めてご紹介いたします

南房総市・安房郡選出の木下敬二(きした・けいじ)県議は、平成26年度一般会計当初予算案など96議案を審議・可決した2月定例県議会で、一般質問と予算委員会の双方に登壇し、地域の課題をしっかりと県政に伝えました。一般質問では、南房総の重要な観光資源でもある花き生産の振興について取上げ、森田知事は「小さい時から花に親しんでもらう『花育』を推進し、需要拡大を図りたい」と前向きに答弁しました。

他にも高齢者施策や酪農振興など、木下県議が取上げた諸課題についての主な質疑を特集しました。なお、一般質問と予算委員会の双方に登壇するのは異例のことで、予算委員会の質疑は、また日を改めてご紹介いたします

このため、県ではハイパウスなどの導入による生産性の向上、ヒートポンプなどの省エネ設備の導入による低コスト化を支援するとともに、有利販売に向けた栽培技術の統一や共同出荷を推進しているところです。また、今後は小さい時から花に親しんでもらう『花育』等の推進により、さらなる需要拡大を図りながら、花き生産振興に努めてまいります。

農林水産部長 電気料金制度は、各国により異なることから、一概に単純な比較はできませんが、日本花き生産協会の資料によると、中国では農業用電気料金は、以前は一般家庭に比べ安く設定されていましたが、近年料金体系が見直され、農業用の方がやや割高になっており、韓国では、農業用電気料金は、一般家庭用の約4割の水準に設定されています。

また、再生可能な耕作放棄地については、農地中間管理機構による担い手への農地集積の対象ともなることから、今後はこうした機構の機能も活用しながら、耕作放棄地の解消をさらに進めてまいります。

●千葉県や南房総市・安房郡へのご要望をお気軽にお寄せください……

木下けいじ 県議事務所

〒295-0005 南房総市千倉町牧田164-1
TEL.0470 (44) 4111
FAX.0470 (44) 4112

●木下けいじ公式ホームページ=http://kishitakeiji.com/ ●Eメール=info@kishitakeiji.com

木下議員 耕作放棄地については、過去に何度か質問をし、耕作放棄地の解消あるいは発生抑制に向けた施策を推進しているとは思いますが、現実には耕作放棄地は増加しています。耕作放棄地の解消に向けて、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 耕作放棄地の解消を図ることは、農業生産の振興や地域環境を守るために極めて重要な課題だと認識しています。

このため、県では地域ぐるみでの農地保全活動や、地域条件に応じた基盤整備

燃料高騰が経営圧迫

木下議員 施設を利用して栽培する花きは、アペノミクスによる円安の影響を受け、燃料の高騰が生産に非常に大きな影響を及ぼしています。1昨年には、東京電力の値上げにより、燃料高騰に苦しむ農家に追い打ちをかけ、農業経営を圧迫している状況です。

中国や韓国では、農業用として一般家庭より安い電力を活用していると聞いていますが、その実情はどうか。

耕作放棄地増加を指摘

木下議員 耕作放棄地については、過去に何度か質問をし、耕作放棄地の解消あるいは発生抑制に向けた施策を推進しているとは思いますが、現実には耕作放棄地は増加しています。耕作放棄地の解消に向けて、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 耕作放棄地の解消を図ることは、農業生産の振興や地域環境を守るために極めて重要な課題だと認識しています。

このため、県では地域ぐるみでの農地保全活動や、地域条件に応じた基盤整備

福祉政策

高齢化に介護追いつかず

特養ホームの待機老人

木下議員 世界に類を見ない急激な高齢化は、要介護者の急激な増加や核家族化の進行によって、介護する側の負担増などから社会問題化し、2000年に「高齢者の介護を家族だけでなく、社会全体で支えよう」という目的で介護保険制度が導入されました。

幾多の経緯を経て、国は財政難及び利用者の希望などから、在宅介護を中心とする方向に制度転換をしてみました。県は、2009年度から特別養護老人ホームの新設や増築に対し、

定員増を図るため増員1人当たり400万円の補助金を出す制度を導入してきました。その結果、本年2月1日現在で、県内の特別養護老人ホームは、327施設、総定員数は2万488人となりました。そこで伺います。1点目として、直近の特別養護老人ホームへの入所待機者は何名か。

健康福祉部長 現在把握している直近のものは、平成25年7月1日時点で、特別養護老人ホームの入所待機者は、1万8593人です。

要介護認定者が急増

木下議員 この入所待機者問題をどのように解決していくのか。

健康福祉部長 県では、要介護認定者が急増する中、平成21年度以降、特別養護老人ホームの整備を積極的に推進し、約5千床を開所させ、入所待機者数がピーク時に比べ、555名減少する成果を上げています。平成26年度当初予算でも、全国トップクラスの補助単価400万円を継続し、25年度並みの1300床を整備する予算を計上してい

ます。今後とも、要介護状態になっても住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の構築にも取り組んでまいります。

要望 4年前に聞いた入所待機者数は約1万6600人でしたが、今回は2千人も増加しています。4年経過しても増加しているのでは、県民に対し申し訳ないと思います。さらなる検討、協議をし、知恵を出して根本的に解決するよう要望します。

認知症施設は3割増

木下議員 介護保険制度の実施状況を見ると、認知症高齢者を対象としたグループホームの事業所数は急増していると思うが、過去5年間の県内の事業所数の推移はどうか。

健康福祉部長 認知症高齢者を対象としたグループホームは、要介護度が軽度の方から重度の方まで利用でき、家庭的な環境の中、日常生活上の世話と機能訓練を行な

い、能力に応じて日常生活を営めるようにするための共同生活であり、認知症高齢者が地域で暮らしにくくするために重要なものと認識しています。認知症高齢者を対象としたグループホームは、平成21年4月現在で327事業所であったものが、直近の平成26年1月現在では427事業所となり、5年間で計100事業所、約30%増加しています。

飼料専用機械の導入を支援

木下議員 現在T P P交渉が進められ、関税撤廃を前提とした場合、特に乳製品は国産の乳製品が輸入品に置き換えられ、本県の酪農も大きな影響を受けることが必至の状況です。規模の拡大を含め、足腰の強い酪農経営への転換は急務であり、地域と連携した経営の存続が望まれます。そこで伺います。そこで伺

います。自給飼料生産や堆肥の有効利用を図り、耕畜連携を進めるためコントラクターなどの支援組織が必要と思われるが、現状はどうなっているのか。

農林水産部長 飼料作物の収穫作業などを専門的に請け負うコントラクターの活用は、酪農家にとって労働力や飼料費の軽減を図る上で有効な手

飼料価格の地域差改善

段となつていきます。県内には、現在30のコントラクター組織があり、県内の飼料作物の作付け面積3950ヘクタールのうち、約800ヘクタールで作業を請け負っています。コントラクターの育成に当たっては、効率的な飼料

生産のための機械導入や組織間のネットワークが必要であることから、県では①飼料専用生産機械の導入支援②新たに飼料生産に取り組む組織に対する研修会やコントラクター同士の情報交換などに取り組んでいきます。

木下議員 飼料価格は、地域によって差があり、酪農経営に影響を与えていると思うが、経営安定のため県はどんな対応をしているのか。

農林水産部長 輸入飼料価格が高止まりする中、生産コストの半分を占める飼料費を低減させることは何より重要となっています。このため、県では飼料自給率の向上に向けて

○水田や耕作放棄地を活用した飼料生産や放牧の普及を進めているところです。

酪農ヘルパー再編強化

木下議員 世代継承できない酪農経営のために、県はどのように規模拡大を進めようとしているのか。

農林水産部長 県では、乳牛の改良による能力向上や、高い能力を持つ乳牛の飼養管理技術の普及並びに経営改善などを支援してきました。今後は、こうした取り組みに加え、酪農家の

休日確保や作業の負担軽減に大きな役割を果たしている酪農ヘルパー組織の再編強化など、地域の状況に応じて積極的に支援してまいります。

要望 酪農家の経営を安定させるため、今まで以上に手厚く対策をこらして欲しい。

コントラクター活用で 耕畜連携の酪農経営転換を!



自席から立ち上がり、再質問に臨む木下県議